

令和6年度第1回若葉区支えあいのまち推進協議会

議事要旨

1 日 時 令和6年7月17日（水）14時00分～15時30分

2 場 所 若葉保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者 委員 24名（欠席委員数 7名）

傍聴人 0名、事務局 11名

4 議 題

（1） 新委員及び新役員の選任について

（2） 令和5年度取組状況調査について

（3） 令和6年度のスケジュール及び議事内容等について

5 事例紹介 「大宮台地区コミュニティバス（おおみやバス）の運行開始」

6 議事経過

- ・委員定数31名のうち7名の欠席を確認して開会した。
- ・開会にあたり区長より挨拶をおこなった。
- ・区長挨拶の後、事務局職員の紹介を行った。事務局より会議の公開について説明があり、あわせて会議録や広報誌作成のため写真撮影、録音を行うことについて了承を得た。

議題（1）新委員及び新役員の選任について

委員改選に伴い、本協議会の正副委員長の選任を行った。

水戸委員より駒野委員に委員長継続の提案があり、出席委員の承認を受け、駒野委員が委員長に選出された。次に、駒野委員長より副委員長の提案があり、出席委員の承認を受け、尾崎委員、日野委員、前田委員が副委員長に選任された。

また、事務局より運営企画委員についての説明及び選任について、昨年度からの委員継続の提案があり、正副委員長及び津田委員、山内委員、平賀委員が運営企画委員に選任された。

議題（2）令和5年度取組状況調査について（資料2）

若葉区高齢障害支援課海老原主査より令和5年度の取組状況の調査についての説明があり、続いて千葉市社会福祉協議会若葉区事務所吉田所長から調査方法についての説明があった。その後、質疑応答に移るも、発言はなかった。

○事務局

令和5年度の取組状況調査については、昨年度同様提出していただいた地区部会総会資料を基に事務局で予め取組状況の記載したのち、内容の確認と追加修正をお願いする予定でいる。7月19日の地区部会連絡会で正式に依頼し、8月を目途に実施したいと考えている。資料2-2「取り組み項目の達成状況」についても基準に基づき記載し、各地区部会で修正して欲しい。資料2-3「令和5年度の実績」、「達成状況」、「令和6年度の目標又は予定」についても予め記載する。「今後の課題と方針」については、「若葉区支え合いのまち千葉推進計画」8ページの「5 取り組み内容一覧」の①～③を全地区部会エリア共通で記載したいと考えている。

議題（3）令和6年度のスケジュール及び議事内容等について（資料3）

若葉区高齢障害支援課海老原主査より令和6年度のスケジュール及び議事内容について説明があった。その後、質疑応答及び意見交換を行った。

○山内委員

オンライン会議の普及啓発は、千葉市もこの方向とわかってはいる。しかし、地区部会活動の中でパソコンによる会議等は難しいと思う。なぜ、行政、地区部会活動にオンライン会議の普及啓発を進めていくのか、将来どういうイメージを想定しているのか説明いただきたい。

社協地区部会未加入地区の地域活動の状況は、大きな問題。地域福祉の推進は社協に関わっている自治会は良いが、体制が整わない自治会に対する指導は誰が行い、どういう活動をされ、どういう報告を受けるのか。

→（事務局）

中間見直しの際、オンライン活用による情報交流は課題として挙がっていたが、どこの地区部会エリアも重点取組項目には選定しなかった。皆、課題としてやっていかないといいないとは認識しているが、ハードルが高いということもあり、なかなか進んでいない状況。各地区部会でやるのは難しいため、統一した試みの中でオンライン会議の普及・啓発をあげた。出来るところから少しずつ進めて行きたい。また、今後、新興感染症等が流行し、集まらない状況のためにも備えたい。

→（事務局）

高品町、原町の一部が社協地区部会未設置地区になる。エリアでいうと結・みつわ台地区になると想定している。地区部会立ち上げ当初から外れていたという経緯がある。組織の強化として、重要課題に挙げて取り組んでいきたいと思っている。今後民児協404地区等と連携し、未加入地区がなくなるよう努力していきたい。

○山内委員

社協地区部会活動は地域福祉の推進という大きな命題がある。住民と向き合う町会自治会、高齢者等に向き合う民生委員児童委員の連携がないと難しい。民生委員児童委員の自覚不足、連携不足 町会自治会の地域福祉に関する理念の共有ができていない。また、その部分の周知が足りていない。社協地区部会活動の活性化と一歩前進した活動をどうするか。今後も課題として取り上げてほしい。

○津田委員

オンラインを利用した会議の開催、ZOOM のお試し利用は人によっては難しいかもしれない。第2回目をオンラインでやるということであれば、各委員が ZOOM でできる体制が必要。早めに事務局が対応できるように準備する必要がある。昨年、支え合い助け合い連絡会で1度実施し、非常に役に立った。現役の方は ZOOM 会議は当たり前に行っている。地区部会でも日常になるように早めに慣れておく必要がある。事務局でバックアップしてできるようにした方がいい。

コミュニティバスの話がある一方で、千葉市はグリーンスローモビリティを進めている。グリーンスローモビリティを担当している部署と福祉関係部署との連携を進めてほしい。講演会の中でグリーンスローモビリティの話があることが望ましい。各地区部会ではグリーンスローモビリティの運営主体をどこがやるかが問題になってくる。自分達で検討するためにも一度市からの講座としてやるのはどうか。

→（事務局）

区内でグリスロが運行されているのは桜木地区と都賀の台自治会で運行となっている。桜木地区は実行委員で運営・運行している。この事業は国の政策からおりてきており、市では交通政策課が所管している。公道を利用するため、交通事情、ボランティア等の活用である程度の人数が集まるのか調査・審査し、現在、2地区の運行になっている。このような現状を踏まえ、全体への普及が難しいというものもある。今後グリスロの推進をしていくのであれば、実施している地区や自治会に事例を発表してもらうことも可能だと思う。

→（事務局）

桜木地区のグリスロの実績としては、ルートの変更を行い、17か所の停留所を用意し、買い物コースの比重を多くした。開始当初から2,054人の方が利用し、利用者の72%を60～80代の人が占めている。

事例紹介 「大宮台地区コミュニティバス（おおみやバス）の運行について」（資料4）

（千葉市町内自治会連絡協議会第26地区）前田委員より、地域活性化のために奔走して

コミュニティバスの運行開始に至った事例の紹介がある。

「大宮台地区コミュニティバス（おおみやバス）の運行開始」

- 昨年、バス会社より、バス路線「都賀線（鎌取駅～都賀駅）」が大幅に減便され、令和6年3月末に廃止となる旨の通知があった。地域住民の移動の足が奪われ厳しい状況になることが明白であった。緑区でも同様の話を聞いていた。過去に小学校統合の時に既存バス路線の拡張に動いたことがあったが、そのときは上手くいかなかった。しかし、今回はその経験が生きた。また、運も良かったと感じている。
- バス会社からの通知を受けた直後に、市交通政策課へ出向き対応策を協議する。区内にはすでに3か所のコミュニティバスがある（おまごバス、さらしなバス、いずみバス）。コミュニティバスの赤字は市の予算で補填することになっており、4月に運行を開始するためには2月に開催する議会の承認が必要となる。そのため、地域公共交通活性化協議会を早急に立ち上げ、路線バス運行開始に向けての協議を重ねた。
- 早め動いたことが功を奏して、今年4月にコミュニティバスの運行を開始することが出来た。1便当たり平均7名以上の乗車があれば、市の補填を受けずに運行が継続できる。今後、令和7年9月に初回の継続判断をすることになる。現在、運行開始から2か月の平均乗車人数は6人/台程度のため、地域住民には利用を促している。

<その他の連絡等>

○事務局

次回、第二回推進協議会は11月の開催を予定。開催日は、後日、事務局から連絡することとした。

若葉保健福祉センター所長から挨拶を行った。

駒野委員長が閉会挨拶をして終了とした。